

横手市議会だより

12月定例会

あなたと市議会



きつね
「狐」

雄物川高等学校3年

ながつか
長塚

はるな
晴菜さん

主な内容

定例会ピックアップ	2
委員会審査報告	4
一般質問	7
ぎかいトピックス	13

作品のこだわりポイント！

私は、狐を描くことが好きです。9本のバラには、「いつもあなたのことを想っています。」という意味を込めています。また、人間の感情を5色で表して狐と重ね、狐の目線は一匹一匹違う誰かを想っている様子を表現しました。

条例改正案1件は否決 本会議で採択された陳情3件を 意見書として国に提出へ

議案第112号 横手市増田まんが美術館設置条例の一部を改正する条例

議案第112号は、増田まんが美術館の設置条例のうち、「コンベンションホール」を「特別展示室大」に改め、一般への貸出を廃止するなどの条例改正案でした。

本会議最終日、反対討論が行われ、起立採決の結果、起立なしで否決されました。

討論

反対 加藤勝義議員より、一増するものではないが、コンベンションホールの利用について、リニューアルの際に一般への貸出を行うとした約束が守られていない。本議案を提出すると同時に、元々の使用団体には代替会場を紹介するべきだったと考え、反対する」との反対討論がありました。

議案第112号は、総務文教常任委員会においても審議が行われています。詳しくは6ページをご覧ください。



横手市増田まんが美術館
コンベンションホール

陳情6第15号・第16号・第17号が採択されたことを受け、国に意見書提出を求める議案案が提案されました。

議案案第6号 介護保険制度の抜本改善、介護従事者の処遇改善を求める意見書

議案案第6号

は、全会一致で可決されました。



議案案第7号 「小・中学校給食費の無償化」を国の制度として実施を求める意見書

議案案第7号は、賛成多数で可決されました。

解説

「県内の給食費無償化の状況」

令和6年10月現在、秋田県では小・中学校給食費完全無償化は2市4町3村(36%)、費用の一部(半額)無償化している自治体は3町(12%)で、完全と一部無償化の合計では12市町村(48%)となっています。

横手市では、令和6年度93食目以降から、少子化対策につながる取組として、多子世帯の子育てに対する経済的負担の軽減を図るため、市立小・中学校に在籍し学校給食の提供を受けている、市内に居住する第3子以降の児童・生徒の給食費を無償としています。

12月定例会は11月25日から12月11日までの日程で開催されました。審議した案件の中から、特に注目する内容について取り上げます。

議案案第8号 「18歳までの医療費窓口負担の無料化」を国の制度として実施を求める意見書

議案案第8号は、賛成多数で可決されました。

解説

「横手市における医療費の窓口負担について」

各種医療保険に加入し、市内に住所を有する方のうち、乳幼児から高校生等までを対象として医療費を助成する、福祉医療費制度・いわゆる「マル福」を導入しています。



議案や意見書の全文はこちらからご覧いただけます。



議案と審議結果

・全会一致で可決された議案については議員賛否を掲載しておりません。
○：賛成 ●：反対 ※小野正伸議長は採決に加わりません。

案件名 会派・議員名		議案 第109号	議案 第112号	陳情6 第12号	陳情6 第16号	陳情6 第17号	議案案 第7号	議案案 第8号
		横手市特別用途地区内における建築物の制限に関する条例	横手市増田まんが美術館設置条例の一部を改正する条例	政府の責任で医療・介護施設への支援を拡充しすべてのケア労働者の賃上げや人員増のため国に意見書提出を求める陳情	「小・中学校給食費の無償化」を国の制度として実施を求める意見書提出の陳情	「18歳までの医療費窓口負担の無料化」を国の制度として実施を求める意見書提出の陳情	「小・中学校給食費の無償化」を国の制度として実施を求める意見書	「18歳までの医療費窓口負担の無料化」を国の制度として実施を求める意見書
議 決 結 果		原案可決	否決	不採択	採択	採択	原案可決	原案可決
表決数	賛 成	22	0	9	20	23	22	23
	反 対	2	24	15	4	1	2	1
市 民 の 会	宮川 拓也	○	●	○	○	●	○	●
	福田 誠	○	●	●	●	○	○	○
	大日向香輝	○	●	●	○	○	○	○
	菅原 正志	○	●	●	●	○	●	○
	齋藤 光司	○	●	●	●	○	○	○
	菅原 恵悦	○	●	●	○	○	○	○
さ き が け	青山 豊	○	●	○	○	○	○	○
	佐藤 誠洋	○	●	○	○	○	○	○
	寿松木 孝	○	●	●	○	○	○	○
	播磨 博一	○	●	●	○	○	○	○
	塩田 勉	○	●	●	○	○	○	○
新 政 会	高橋 聖悟	○	●	○	●	○	●	○
	柴田 忍	○	●	○	○	○	○	○
	佐藤 忠久	○	●	●	○	○	○	○
	小野 正伸	※	※	※	※	※	※	※
	高橋 和樹	○	●	●	○	○	○	○
創 成 の 会	林 一輝	○	●	○	○	○	○	○
	本間 利博	○	●	●	○	○	○	○
	加藤 勝義	●	●	●	○	○	○	○
日本共産党	鈴木 勝雄	○	●	○	○	○	○	○
	立身万千子	○	●	○	○	○	○	○
公 明 党	土田百合子	○	●	●	○	○	○	○
	井上 忠征	○	●	●	○	○	○	○
新 風 の 会	木村 清貴	●	●	●	○	○	○	○
実 横 会	加藤 雄太	○	●	○	○	○	○	○

議案

pick Up!!

令和6年度横手市一般会計補正予算(第8号)(議案第126号)

灯油価格高騰による低所得者世帯等の負担を軽減するため、灯油購入費の一部助成に必要となる予算や、7月の豪雨災害で被害を受けた農地・農業用施設、林道施設、道路、橋りょうなどの災害復旧を行うために必要となる予算などについて審議し、採決の結果、起立全員により可決されました。

陳情の審査結果

採 択

- ◆陳情6第10号 学校給食の米飯委託料金改定等に関する陳情書
(株式会社さそう
代表取締役 佐藤 雅史氏 他2名)
- ◆陳情6第15号「介護保険制度の抜本改善、介護従事者の処遇改善を求める」国への意見書提出を求める陳情書
- ◆陳情6第16号「小・中学校給食費の無償化」を国の制度として実施を求める意見書提出の陳情
- ◆陳情6第17号「18歳までの医療費窓口負担の無料化」を国の制度として実施を求める意見書提出の陳情
(第15～17号 秋田県社会保障推進協議会
会長 佐藤 幸美氏)

不採択

- ◆陳情6第12号 政府の責任で医療・介護施設への支援を拡充しすべてのケア労働者の賃上げや人員増のため国に意見書提出を求める陳情
(秋田県医療労働組合連合会
執行委員長 奥井 明子氏)

11月臨時会の概要

9月定例会において、市職員の相次ぐ事務ミスや不祥事を受け、市長、副市長、教育長の給料を10分の1、一カ月分減額する条例改正案が当局から提出されましたが、処分案の再提出を促す反対討論もあり、賛成少数で否決されています。

これを受けて、11月臨時会では市長の給料を10分の1、三カ月分減額する条例改正案が提出され、賛成多数で可決しました。

なお、副市長、教育長については、条例改正案に盛り込まず、給料を10分の1、一カ月分自主返納する旨の説明がありました。



本会議の様子は、横手市議会ホームページからご確認いただけます。

厚生常任委員会

こころと身体健康と 福祉政策の充実を

◆一般会計補正予算（第8号）

Check! ひきこもり対策の全体像は？

問 新設する「ひきこもり支援センター」の開設場所と配置の人数は何人か。ひきこもりに関するアンケートから多くの方のひきこもりの実態が見えてきた。調査結果から、どのような支援を行っていくための予算か。

答 令和7年4月にY²ぷらざ1階に開設する「ひきこもり支援センター」改築のための補正予算である。カウンセラーを4名配置して主に子ども・若者向けに、窓口対応や電話、訪問によるカウンセリングや居場所づくりのためのスペースをつくる。教育委員会や、ひきこもり相談支援機関と連携して環境調整等を行いながら支援していく。今後は成人向け支援のため、就労支援につながるようなひきこもり対策を検討していく。

Check! 補聴器購入費助成金制度の申請見込みと今後の周知は？

問 補聴器購入費助成金について申請が多いとのことだが、年間の程度の申請見込みであったのか。助成金について今後も周知が必要だがどうか。

答 当初100件の申請を見込んでいたが、現在月平均15件程度の申請があり、今年度は161件の申請を見込んでいる。今後も広く周知していく。

「補聴器購入費助成金制度とは」
身体障害者手帳の交付対象とならない軽度・中等度難聴の成人の方を対象として補聴器購入費の一部を助成する制度です。詳しくは市健康推進課または各地域局市民サービス課へお問合せください。



Check! 市立保育所の民営化の行方は？

◆横手市立保育所設置条例の一部を改正する条例及び財産の無償譲渡について

問 さんない保育園を民営化するにあたり、譲渡先の経営面や、事業内容、現在の職員の処遇などが懸念されるが対応はどのようになるか。



民営化するさんない保育園

答 民営化法人選定委員会には譲渡先の本来の保育事業に加え、子育て家庭の相談会、保育留学の受け入れ、広い園庭を使った市内保育所と連携したイベント等を検討しているとのプレゼンテーションがあった。また、現在の正職員は他部署に異動予定であり、会計年度任用職員の多くは民営化法人の職員になる手続を進めている。

Check! 医療・介護労働者の賃上げと人員増を

陳情 ◆政府の責任で医療・介護施設への支援を拡充しすべてのケア労働者の賃上げや人員増のため国に意見書提出を求める陳情

討論

賛成 ケア労働者の賃金水準は全産業平均から大きく下回る。願意が妥当と考え、賛成する。

否 起立採決の結果、起立小数により不採択とすべきものと決定しました。

厚生常任委員

本間 利博
立身万千子
寿松木 孝
宮川 拓也
井上 忠征
播磨 博一
菅原 惠悦
佐藤 忠久

産業建設常任委員会

来年度の春作業に 支障がない復旧を

Check!

7月の大雨災害からの
復旧状況はどうなっているの？

◆一般会計補正予算（第8号）

問 農地農業用施設災害復旧事業について、来年度の春作業に支障が無いようにすべきではないか。

答 繰越明許費に全額計上しているが、場所によっては春作業に支障が出る場合が考えられる。受益者や土地改良区と協議し、冬のうちに水路を直すなど年度内にできるところは早めに発注したい。なお、業者の確保については課題と捉えており、県とも相談しながら発注の仕方を検討しているところである。

また、大きな河川被害など、来春までの完全復旧が難しい場合でも何らかの手立てを考える。関係機関を含めて協議し、支障が無いように進めていきたい。



7月の大雨災害で
被害を受けた農業用施設

問 農林水産業費のうち、農業経営支援事業に含まれる、担い手への農地集積推進事業の成果について、どのように考えているか。

答 国の機構集積協力金の交付を行っていたもので、農地中間管理機構の設立時に、この事業があったことにより急速に農地が集積したという事実からも一定の成果があったと考えている。

Check!

特別用途地区制限による
影響は？

◆横手市特別用途地区内における建築物の制限に関する条例

問 制限がかかるエリアにおいて、対象となる事業者はどのくらいいるのか。またどのような説明をしたのか。

答 準工業地域において、床面積が1万平方メートルを超える店舗は十文字地域に1棟設置されている。当該所有者には2割を超えない範囲での増改築は可能との説明をし、了承を得ている。

Check!

指定管理したことでサービス
向上は図られているの？

◆公の施設の指定管理者の指定

問 サンサン横手は、経年劣化により修繕が必要な箇所が複数見られるとの

ことだが、今後の見込みは。

答 冷暖房設備の改修には多額の費用が見込まれることから、現在はエアコンを各部屋に取り付けることを模索している。高所の照明等の修繕も足場等が必要となるため、計画的に行うことを考えている。

また、当初から設置されている音響機器や備品等についても精査していきたい。

問 横手市増田休養施設「真人山荘」は、横手市財産経営推進計画（FＭ計画）上の位置づけではどうなっているか。

答 「譲渡」となっている。指定管理者との協議で譲渡は難しい状況にある。

問 老朽化が進んでいると思うが、トイレ、畳など利用者の要望を聞き取り、必要な修繕を施していくべきではないか。

答 施設については、少しずつ状態を改善していきたいと考えている。



産業建設
常任委員

志忍	正	菅原
雄太	柴田	
勝雄	加藤	
一輝	鈴木	
誠洋	林	
光司	佐藤	
和樹	齋藤	
	高橋	

総務文教常任委員会

増田まんが美術館「コンベンションホール」を「特別展示室大」に!! 市民団体の活動は



横手市増田民俗芸能フェスティバルの様子

Check!
増田まんが美術館における市民団体の活動は

◆横手市増田まんが美術館設置条例の一部改正

問 まんが美術館のリニューアル時にコンベンションホールは、地域団体が利用できる約束だったが、実際には利用できなかった。このような市民の声を把握しているのか。

答 市民団体の活動について不満があることは承知していた。活動は、増田地区多目的研修センターや、各地区交流センター、体育館などで継続していただいている。

問 芸文祭についても、雨漏りしている体育館で開催されているが、最初の約束が守られていないとすれば他の施設を紹介しなければならないと思うが。

答 各団体に聞き取りを行ったところ、まんが美術館のコンベンションホールの使い勝手が悪く、現在は増田地区多目的研修センターや各地区交流センター、体育館などで活動を行っているとのことだった。

討論

反対

今回の条例改正は、全てまんがに特化した施設にするという内容だが、その反面、地域団体の活動の芽を摘んでいる。この議案を提出すると同時にここで活動していた方々の場所の確保等々も、一緒に提案すべきだったのではないかと考え反対する。

否

採決の結果、起立なしにより否決すべきものと決定しました。

Check!

少子化対策を図るために

◆一般会計補正予算(第8号)

問 結婚新生活支援事業補助金の申請件数が当初予定より上回っているとのことだが、今後の見込み件数は。

答 当初は29歳以下が12件、それ以外は17件を見込んでいた。この制度には翌年度継続申請という救済措置があり、令和5年度から継続申請される方13件分を補正するものである。

Check!

つぎの木館の廃止について

◆横手市地域コミュニティ施設設置条例の一部を改正する条例

問 施設利用者への説明はどうか。

答 つぎの木館を利用していた集落の方々と協議した結果、館合地区交流センターを活用していきたいとの回答をいただいている。

Check!

学校給食費の無償化を推進

陳情

◆「小中学校給食費の無償化」を国の制度として実施を求める陳情

可

審査では、国の動向に係る質疑が行われ、採決の結果、起立多数により採択すべきものと決定しました。

総務文教 常任委員

子田百合子
日向香輝
木村清貴
福田誠
青山豊
高橋聖悟
加藤勝義
塩田勉

11人の議員が市政を問う ココが聞きたい！



12月2～4日に一般質問が行われ、11人の議員が市民の皆さんの生活にかかわる行政全般について質問をしました。

一般質問の様子は、インターネットでライブ中継しています。また、一部を横手かまくらFMで生放送するほか、市議会ホームページで全ての一般質問を録画中継でご覧いただけます。

二次元コードを読み取ると、動画をご覧いただけます。



二次元コード
読取



- ◆ 菅原 正志 議員 … 入浴に特化した長く使える鶴ヶ池荘を
- ◆ 青山 豊 議員 … 大雨災害対応での教訓をどう生かすのか
- ◆ 高橋 和樹 議員 … 横手市民会館の未来はどうなる？
- ◆ 林 一輝 議員 … コミュニティ・スクールの推進を
- ◆ 立身万千子 議員 … ウェルビーイングで市民も職員も幸せに
- ◆ 井上 忠征 議員 … 物価高騰対策で低所得者支援を
- ◆ 福田 誠 議員 … 地域活性化のために「マンガ学科」設立を
- ◆ 寿松木 孝 議員 … 早急に大雄堆肥センターの移転を！
- ◆ 本間 利博 議員 … 横手市の林産業活性化について
- ◆ 齋藤 光司 議員 … 人口減少、少子高齢化対策を考える
- ◆ 土田百合子 議員 … 「田んぼダム」で洪水被害の低減を図れ

菅原 正志 議員

すがわら ただし



入浴に特化した 長く使える鶴ヶ池荘を



問 山内地域に温泉は必要と考える。現在の施設を使うよりも、入浴施設として新規の建物を建設することは考えられないのか。

答 現存の施設を改修して再開を考えており、概算コストを把握するため調査している。

●大森浄化センターについて
問 施設供用には、客観的な証明が必要と思うが、水漏れ防止策と瑕疵担保責任だけで大丈夫か。

答 現在まで新たな漏水等は発生していない。瑕疵担保責任については、水槽と基礎部分が契約不適合となっており、複数の業者から構造物としての健全性の保証を自身の責任をもって提出することは難しいとの回答を得ている。

●大雄堆肥センターについて

問 地域環境に犠牲を強いている現状は即刻解決すべきではないか。

答 臭気問題については、近隣の

皆様より要望が寄せられており、不快な思いをされている方がいることを心苦しく思っている。臭気の抑制対策に引き続き取り組み、合わせて施設の移転を含めた抜本的な解決策も調査・検討する。

●新年度予算について
問 103万円の壁の議論は税金にどのような影響が予想されるのか。

答 10億から11億円程度の市民税減収の影響が見込まれる。

問 合併特例債の残高はいくらか。

答 約50億円であり、有効に活用したい。



再開が検討されている
鶴ヶ池荘

青山 豊 議員

あおやま ゆたか



大雨災害対応での 教訓をどう生かすのか



問 7月の大雨災害における対応で得た教訓を今後どう生かしていくのか。

答 特に避難所の運営について、改善すべき点があったと捉えている。避難を呼びかけた初期期は住民が一斉に避難したため、避難所の運営に混乱が生じ、物資を必要とする方に提供できなかったケースがあった。また、市の対策本部と避難所において、避難者への対応の状況が十分に情報共有できていなかった。

このため市では、防災備蓄品の分散配備を強化し、避難所における避難者への対応方針について、庁内で改めて確認し、改善に努める。

問 市と県の連絡体制に問題があるような事例があった。今後の対策において県と話し合う必要性があるのではないか。

答 市の情報を県に全て伝えられていなかった。改めて連絡調整を行った。

問 市と市民で避難所運営の在り方にギャップがある。それをどう埋めていくのか。

答 小さい地域の中での自主的な防災活動の後押し、お手伝いをしていきたいと思っている。

■その他の質問

- 市の附属機関について
- 再生資源物の屋外保管について
- 庁内におけるカスハラ対策について



大雨災害のイメージ

高橋 和樹議員

たかはし かずき



横手市民会館の

未来はどうなる？



問 市民会館の移転新築計画の一時中断が発表された。老朽化した現在の市民会館を含む、市内のホール施設の維持管理の方向性は。

答 現市民会館は収容人数の関係上、興行では採算性が期待できないが、市民の発表の場や舞台芸術に触れる場としての利活用を進めるため、適切な維持管理に努める。

問 建物と設備関係の修繕と舞台装置関連機器の入替など、かなりの費用を要すると思うが、今後も継続使用ならば優先順位をつけて修繕を実施すべきではないか。

答 状況を見極めながら緊急度や優先度を判断し検討するが、莫大な金額がかかる場合は休館も余儀なくされると考える。

問 廃止や休館とするならば、秋田市のミルハスのように県と市の連携事業として秋田ふるさと村の施設を活用できないものか。

答 市民会館の機能をそっくり当てはめることは厳しいが、県と話し合いながら、新体育館完成後の相乗効果も考えて相互の連携を生かすことを意識したい。

●鶴ヶ池荘の再開の方向性は。

問 改修や修繕にかかる多額の費用は常識的に考えて市民や議会から認められるものなのか。解体し、新たに日帰り施設にできないか。

答 必要とする概算費用の確作業中であるが、市民の理解を度外視した事業を進めるわけにはいかないと考える。



928人収容可能な現在の市民会館

林 一輝議員

はやし かずき



※コミュニティ・スクールの

推進を



問 令和4年度から市内全ての小中学校に設置しているが、現在までの進捗と成果について伺う。

答 小学校の運動会に地域住民が参加することで世代間交流が実現した。また、利用されていなかった裏山に注目し、地域住民との協力により林道を整備し、学習資源として活用する等の取組をしている。成果としては、学校運営協議会委員と教職員が理解を深めつつ、想定以上の学校課題に対する取組が進められていることがある。

問 現状の課題はなにか。

答 地域住民の認知度が低いことが挙げられる。認知度向上の対策としては、学校のホームページや学校だより、地区交流センターだよりなどで周知を図っている。周知活動の継続は勿論だが、多くの市民が活動に携わることでも解決できると考える。

問 今後はどう進めていくのか。

答 地域課題や学校課題の解決が前進するように、教育委員会として見守っていく。

問 今後進めていく上で、コミュニティ・スクール同士の連携が重要と考えるがどうか。

答 年一回の研修会で、実践事例発表やテーマ別の意見交換会を行っている。今後は、横手市全体だけではなく、地域毎の連携も検討する。

■その他の質問

●ケアラーの把握と対応について



地域と学校を繋ぐ重要な役割をもつコミュニティ・スクール

立身 万千子 議員

たつみ まちこ



ウェルビーイングで 市民も職員も幸せに



問 市役所職員の健康維持・増進への取組について、健康診断と二次検診の受診率を伺う。

答 人間ドックを含む受診率は98%弱、二次検診は73%だった。

問 職員のストレスチェックは。

答 会計年度任用職員も含め実施し、高ストレスと判定されれば希望により専門医によるリモート面談を実施している。

問 職員のメンタルヘルス対策は。

答 産業医や衛生管理の有資格者による相談体制のほか「共済組合メンタルヘルス相談事業」などの電話相談窓口を周知している。

問 健診費用等で正職員と非正規職員の待遇は同じか。

答 待遇の相違はない。二次検診に係る費用は全員が自己負担となる。

●安全安心な食について

問 学校給食費の完全無償化を求めることに加え、市はもう一歩考

えを進めて身体に害の少ない食材を価格の心配なく提供できないか。

答 第3子以降の学校給食費無償化を継続する。また、給食用米を農薬の使用を通常より抑えた横手産の「eコライス」を使用するほか、可能な限り食材の地産地消の取組を推進していく。

問 有機フッ素化合物(PFAS)^{※1}やネオニコチノイド^{※2}が水道に含まれることへの対策は。

答 水質検査では安全性に問題はない。継続的に検査を実施し、ホームページ等で公表していく。



安全安心な学校給食の提供を

井上 忠征 議員

いのうえ ちゅうせい



物価高騰対策で 低所得者支援を



問 市で物価高騰対策として検討している事業は何か。

答 国の重点支援地方交付金による、低所得者への支援及び地域の実情に応じた物価高騰対策支援である推奨メニューについての案が閣議決定され、今後、自治体へ事業実施に向けた詳細が示される。

現時点では詳細な情報が示されていないが、実施事業の検討にあたり、過去に実施した事業の効果検証も行い、必要な対象・分野を慎重に見極めながら準備を進める。

なお、市の独自施策である「あつたか灯油助成事業」として、非課税世帯のなかで一定の条件に該当するおよそ6500世帯に対して、5000円の灯油購入費の補助を実施する予定である。

問 給付金対象者を拡大することはどうか。

答 給付金の対象者を拡大するこ

とは現時点では検討していない。今後国から示される推奨メニューや他自治体の取組を参考に、最も効果的な支援策を検討する。

●税務運営について

問 適正な課税はどのようにして検証しているか。

答 住民税は未申告状態を解消するため未申告所得調査を実施し、関係機関より課税資料のデータを収集している。固定資産税はリフォームへの対応検討を進める。

■その他の質問

●病院経営改善等



普段の買物でも
物価高騰が目につく

※1 PFAS……………有機フッ素化合物のうち人工的につくられたフッ素の多い化合物の総称。環境中で分解されにくく、人体への悪影響も指摘されています。

※2 ネオニコチノイド…広く農業や殺虫剤等に使用されている化学物質の名称。人体には安全とされてきましたが、人体への毒性と悪影響が懸念されています。

福田 誠議員

ふくだ まこと



地域活性化のために 「マンガ学科」設立を



問 地域活性化のためにも、再編予定の新高校への「マンガ学科」設立を働きかけてはどうか。

答 市としては、マンガ学科に限らず、地域資源である増田まんが美術館や農業などを生かした特色ある学びに取り組んでもらうよう、関係機関に働きかけていきたい。

●新体育館の運営について

問 維持管理費の財政負担軽減策の検討および施設運営の収益化について問う。

答 施設を活用した直接的な収入として、ネーミングライツや広告収入等が想定され、収益化としてはスポーツ教室やイベントの開催など、様々な方法が考えられる。

問 省エネや環境への配慮として「ゼブレディ」の認証を受けているようだが、その環境配慮型施設としての取組について問う。

答 現時点における県内同種の公

共施設において認証の事例はなく、将来を見据えた効果的な取組としてご紹介できるものと考えている。

問 新施設をホームとする、バレーボールのプリーグ参入を目指すチームの誘致と連携について問う。

答 地元のクラブとして、しっかりと応援し、連携を図りながら、当市のスポーツ振興につなげていく。

■その他の質問

●不登校児童生徒の現状と対策について

●多様な学びの場の提供について



当市に拠点を置くスカイロケッツ アキタのエキシビジョンマッチの様子

寿松木 孝議員

すずき こう



早急到大雄 堆肥センターの移転を！



問 大雄堆肥センターは、求められている悪臭対策に対応できていない状況だ。早急に移転を含め今後の運営方針を示すべきと思うが。

答 当該施設は、まもなく市が定めた目標耐用年数を迎える。これまで寄せられた要望に応えられず、非常に申し訳なく思っている。

地域からも移転の要望が出されているが、移転先の選定などハードルも高い。まずは臭気の抑制対策に取り組み、移転への調査検討をしていく。

問 課題を抱えた施設であったことから、標準耐用年数を迎える前に地域と協議を重ね、延長するべきだった。市からは、何の説明も無いまま現在に至っており、地域住民からは一刻も早い移転を望む声が聞かれるが、その対応は。

答 市として直接説明をしてこなかったのは反省している。今後地域への説明会を早急に実施し、施設のあり方を検討する。

●市長の衆議員選挙期間中の選挙応援について

問 衆院選の選挙応援による公務への支障は無かったのか。

答 各種選挙への応援は、公務最優先で協力している。

問 選挙応援での公用車の使用は。

答 基本は自家用車だが、直接公務に行く場合などは、応援先に迎えに来てもらう場合もあるが、全国での判例などから、許される範囲と認識している。



老朽化の進む大雄堆肥センター

本問 利博議員

ほんま としひろ



横手市の林産業

活性化について



問 横手市の面積の54.2%を占める山林の活用は、林産業の活性化だけでなく環境保全や防災の役割を果たしている。伐採→木材利用→再造林の循環が必要だが、そのためには木材の利用促進が求められる。具体的な取組について伺う。

答 市発注の工事等の仕様書に地元産木材の使用について記載している。小中学生を対象とした木工体験等の木育の実施、森林資源の循環のために伐採後の森林整備の再造林に対する支援を行いながら、地元産木材の利活用を進める。

●発酵のまち横手について

問 日本の伝統的酒造りがユネスコ無形文化遺産に登録される見通しだが、発酵食品全体への注目が高まることが期待される。「発酵のまち横手」として発酵食の魅力をアピールするための具体策を伺う。

答 市民の皆様が発酵文化に対す



小中学生を対象とした木工体験の様子

る理解、関心を高めていただくために「酒蔵めぐり」や「発酵の学校」の実施、県内の大学にフィールドワークの提案をするなど発酵食文化を広く発信していきたい。

●河川のしゅんせつについて

問 昨今の局地的な大雨災害や雪解け水対策として、河川のしゅんせつが必要と考えるが取組について伺う。

答 管理者が県の場合は、年次計画で実施してもらっている。市管理については危険性を調査し、未然に防ぐ対策を講じていく。

齋藤 光司議員

さいとう ひろし



人口減少、少子高齢化

対策を考える



問 合併時から30%以上人口が減少した地域もある。現在までの横手市の人口の推移は、市の人口ビジョンの想定内となっているか。

答 令和2年の国勢調査の数値が85,555人であり、人口ビジョンで示している市独自の将来展望の数値87,091人には至っていない状況である。

問 市内での人口減少や少子高齢化における地域(旧市町村単位)格差をどう捉えているか。また、地域格差への対策は取られているか。

答 各地域における人口減少率は、横手地域が最も低く、山内地域が最も高くなっている。高齢化や過疎化は中山間地域や田園地域において顕著な傾向があり、地域づくり活動補助金などの各種制度を通じて、各集落における自助や共助の取組を支援している。

問 限界集落という言葉も定着し

てきたが、横手市の実態はどうか。また、それに向けた対策は取られているのか。

答 住民の65歳以上の割合が50%を超えている限界集落は164である。集落を維持するには、地域におけるリーダーの育成や共助の体制づくり、若い世代が魅力を感じる地域づくりが重要と考えており、各地域の特性や課題を把握しながら支援していく。

■その他の質問

●市の公共施設の老朽化、市内の空き家の増加について



地域課題解決のための支援が求められる

土田 百合子 議員

つちだ ゆりこ



「田んぼダム」で 洪水被害の低減を図れ



問 田んぼダム導入について伺う。

答 田んぼの持つ貯水機能を利用し、大雨の際に一時的に田んぼの水を貯め、ゆっくりと排水することで、下流域の洪水被害の低減を図る田んぼダムの取組は、流域治水への取組の一つとして有効なものと認識している。その効果や影響も含め、農業者の皆様などへ情報提供していく。

●防災道の駅の選定について

問 道の駅十文字を「防災道の駅」にしてはどうか。

答 道の駅は、災害時には地域の避難場所・支援活動の拠点として重要な役割を担っている。道の駅十文字の「防災道の駅」選定を目指すことで、防災機能の拡充に対し重点的に支援が得られることから、県からの意向調査に対し、「防災道の駅」として選定されることを希望する旨を回答している。



田んぼダムの模型を使っの
説明会（仙北地域振興局）

●市営住宅の入居について

問 連帯保証人2名から1名への緩和について伺う。

答 住宅に困窮する低所得者への住宅提供という公営住宅本来の目的を踏まえ、要件緩和に向けた取組を早急に進めていく。条例改正は6月頃になる。

■その他の質問

●市営住宅のバリアフリー化についての取組は（階段や室内への手すり等の設置）

●道の駅十文字への「シャワー設置」と「駐車場拡張」の考えは

議会の 主な 動き

10月

- 3日 千葉県野田市議会行政視察受け入れ
- 8日 総務文教常任委員会行政視察（～10日、福岡県朝倉市・うきは市・北九州市）【P14】
- 9日 厚生常任委員会協議会
- 11日 福島県福島市議会行政視察受け入れ
- 12日 那珂市友好都市20周年記念式典（～13日、茨城県那珂市）
- 15日 厚生常任委員会行政視察（～17日、愛知県東海市・大府市）【P14】
- 産業建設常任委員会行政視察（～17日、長崎県佐世保市・長崎市・大村市）【P15】
- 22日 秋田県市議会議長会議員研修会（秋田市）
- 24日 正副委員長会議、議会運営委員会、全員協議会（議案説明会、行政課題説明会）
- 28日 秋田県後期高齢者医療広域連合議会定例会（秋田市）、議会改革推進会議
- 31日 県南地域市議会議員研修会（湯沢市）

11月

- 5日 市議会11月臨時会【P3】
- 山形広域環境事務組合行政視察受け入れ
- 大森浄化センター整備事業に関する調査特別委員会
- 7日 徳島県三好市議会行政視察受け入れ【P15】
- 14日 栃木県栃木市議会行政視察受け入れ
- 宮城県岩沼市議会行政視察受け入れ
- 18日 正副委員長会議、議会運営委員会
- 全員協議会（議案説明会、行政課題説明会）
- 議員特別研修報告会
- 19日 秋田県市議会議長会議臨時会（秋田市）
- 25日 市議会12月定例会（～12月11日）【P2～6】
- 28日 広報分科会

12月

- 2日 議会運営委員会、ICTプロジェクトチーム会議
- 大森浄化センター整備事業に関する調査特別委員会
- 3日 議会運営委員会
- 4日 全員協議会（行政課題説明会）
- 大森浄化センター整備事業に関する調査特別委員会
- 9日 正副委員長会議、議会運営委員会
- 11日 議会運営委員会、全員協議会（行政課題説明会）
- 13日 広報分科会
- 16日 議会改革推進会議
- 17日 大森浄化センター整備事業に関する調査特別委員会
- 24日 大森浄化センター整備事業に関する調査特別委員会
- 広報分科会

総務文教常任委員会

10月8日～10日

みんな de Bousai 地域防災力向上

福岡県北九州市

■ 自助・共助で防災のまちづくり

「みんな de Bousai」は、地域住民が主体的に防災活動に参加するまちづくり推進事業。避難指示事前告知では、台風接近時等に、早期に避難を呼びかけることで、迅速な避難行動につなげている。これらの取組で、北九州市は平時からの防災力向上を目指している。

視察を終えて

- ▶平成30年7月豪雨災害を受け、警戒区域の拡大や避難率向上を目的に2時間前に避難指示の事前告知を実施、効果が大きいとのこと。
- ▶地区 Bousai 会議に専門家を派遣し地区独自の防災計画作成等を支援している。地区の運動会を防災運動会*に変更するなど、小規模な取組が有効かつ重要と感じた。



豪雨災害の状況と 防災道の駅選定

福岡県うきは市

■ 自主防災組織と防災道の駅

平成24年豪雨災害で大被害を受け、避難情報伝達や備蓄の強化など防災力向上に取り組んだ。その一環として「道の駅うきは」が防災拠点に選定され、地域防災の核として整備された。災害の教訓は、その後の災害対応に生かされている。

視察を終えて

- ▶地域防災力強化事業補助金を創設、自主防災組織を支援し、防災意識の向上を図っている。また、注意喚起のため、過去の災害に関する冊子を作成している。視覚に訴える方法は参考にすべき。
- ▶道の駅は、平成29年豪雨災害時にボランティア団体の野営地となった実績もある。現在も整備は続いており、注目を集めている。



豪雨災害の対応と 今後の対策は

福岡県朝倉市

■ 災害時孤立集落の対応と対策

平成29年7月に大規模な豪雨災害が発生、朝倉市における当時の対応と教訓を伺った。災害時孤立集落の発生を踏まえ、災害対応の課題と、その後の防災・減災対策へどう生かされたか取組を検証した。

視察を終えて

- ▶被災後、孤立集落の恐れがある集落や臨時ヘリポート候補地の情報などを自衛隊に提供している。
- ▶自主防災マップの見直し版作製や避難場所の追加指定、避難基準の見直し、防災出前講座を実施し防災意識の向上を図っている。
- ▶避難場所のきめ細かな検証や、町内会など小規模な単位での講座や訓練は当市でも必要と感じた。



厚生常任委員会

10月15日～17日

大府市空家等 対策計画について

愛知県大府市

■ 民間企業と連携した空き家対策

空き家の課題を分類整理し対応しているほか、法に規定されない空き家を「類似空家等」として条例に定めるなど早期から対応。また、不動産業者と協定を結び、解体費用見積りを無償で提供するなど解体促進も行っている。

視察を終えて

- ▶空き家対策はどこの自治体でも課題としていて大府市は積極性がみられた。類似空家の条例化や解体の際に役立つ民間の見積りサービス活用など、市の財政負担を少なくする工夫をしながら空き家対策を行っている。都市整備部が担当することで都市計画の一部に組み込んでいるところは大いに参考になった。



空家等の適切な管理や 利活用とは

愛知県東海市

■ 東海市空家等対策計画について

空き家の維持管理促進策として、写真を付けて所有者に啓発文を発送している。除却・跡地利用促進策として商工会議所との連携のほか、シルバー人材センターと協定し、空き家等の見回りや外観点検等のサービスを提供している。

視察を終えて

- ▶東海市は名古屋南部臨海工業地帯の一角を占める産業上の拠点都市であり、当市とは土地活用に大きな違いがある。空き家に関する他団体との協定やマイホーム借り上げ制度、シルバー人材センターとの協定などを参考にしたい。市の一つの課で取り組むことは難しく、関係課が連携することが必要と感じた。



ひきこもり 支援事業について

愛知県東海市

■ 支援実績のある団体に事業委託

社会福祉団体へ委託し、図書館の2階にセンターを設置。家族支援として勉強会や家族交流会等の開催、就労準備支援として内職ボランティア活動の実施のほか、子ども食堂などの協力を得ながら、学習・生活支援などを実施している。

視察を終えて

- ▶今回の当市のひきこもりに関する調査結果を受けて、ひきこもり支援センターを充実させる必要を感じた。様々な部署の窓口や内容別の相談所は必要であるが、支援の窓口を一本化して支援内容別に専門の担当者が支援にあたることは有効と感じた。居場所支援のためのセンター設置も必要と考える。



産業建設常任委員会

10月15日～17日

産業支援センターの 取組は

長崎県大村市

■ 商工会議所と連携した支援

センターは、商工業経営基盤の強化と創業支援を目標に設置された。商工会議所の事業の一つとして運営されるとともに、商工会議所の職員が副センター長として配置されていることで、互いに連携しやすい環境となっている。

視察を終えて

- ▶ 人手不足が加速する現代において、企業連携は重要であり、創業支援だけでなく、横の繋がりも築いているセンターの取組は、重要であると感じた。
- ▶ 今後は、AIやIT技術の活用を推進することで、人手不足の解消や事業拡大などを積極的に図っていききたいとのこと。これについては、当市でも同様に推進していくべきである。



まちぶらプロジェクトの 取組

長崎県長崎市

■ 激変する長崎市のまちづくり

まちぶらプロジェクトは、中心市街地活性化基本計画や都市再生整備計画などに位置付けて推進され、国の支援策が活用されていた。中心地を5つのエリアに分け、魅力づくり、軸づくり、地域力によるまちづくりが行われている。

視察を終えて

- ▶ 新幹線の開業、サッカー場を中心としたアリーナ・ホテル等からなる複合施設の建設、高さ90m超の新市役所など、官民一体の投資が背景にみられた。賑わい拠点からの誘導路の整備やマップ作成などでまちなかの回遊性を高め、各エリアの主な事業内容とスケジュールをまとめる取組について、当市でも参考にすべきと感じた。



水道管の適正な 維持管理を目指す

長崎県佐世保市

■ 水道管路アセットマネジメント (資産管理) の取組

佐世保市水道事業では、情報管理システムの導入によって管路の現状や記録を確実に管理している。またそれらを可視化することにより、資産管理の持続性・確実性の確保を図っている。

視察を終えて

- ▶ 使いやすさに特化したシステムを導入することで、管路についての情報の入手や閲覧が容易となり、職員間での情報共有が促進されていた。その一方で大量の情報が蓄積されて情報過多になっているため、情報整理が必要とのこと。
- ▶ 管路を老朽化率のみで判断するのではなく、情報や記録から適正に更新する重要性を学んだ。



令和6年度行政視察の受入状況

さまざまな行政課題を解決するため、先進的な取組を行っている全国の自治体を実際に訪問し、調査研究を行うのが「行政視察」です。横手市議会でも、これまで全国からたくさんの行政視察を受け入れており、今年度の受入実績をご報告いたします。

令和6年度受入実績

19議会 / 150人



園芸振興拠点センターを
視察する徳島県三好市議会の皆さま

主な視察テーマ

- ◎ よこて農業創生大学事業 4件
- ◎ 議会改革の取組について 4件
- ◎ 増田の伝統的建造物保存地区とまんが美術館 2件

その他

- 地域公共交通について（循環バス・デマンドタクシーなど）
- 婚活支援について（若者交流促進事業など）
- 横手駅東口市街地再開発事業について（Ao-naなど）

青春 キャンパス色



私たち雄物川高校陸上競技部は、現在1、2年生7名（長距離3名、短距離2名、投擲2名）で活動しています。中学校からの陸上競技経験者は少ない中、投擲種目では一昨年はインターハイ出場、今年は東北大会への出場を果たすことができました。また、10月に行われた高校駅伝秋田県予選会では、順位がつかない4校での合同チームでしたが、本校から4選手が出場し、全体順位では3位でした。

このように、トラック競技はより速く、投擲競技はより遠くへ投げるために、目標に向かって日々練習に取り組んだ結果、ひとり一人が自己記録を大きく更新した一年でした。

雪に覆われる冬季間は、限られた時間の中で自分と向き合い、仲間と切磋琢磨しながら練習に励んでいます。そして、来シーズンには一人でも多く、東北大会に出場したいと思います。日頃から応援してくださる方々へ競技で恩返しできるように頑張ります。

雄物川高等学校陸上競技部 主将 いしかわ 光汰



室内練習で汗を流す雄物川高等学校 陸上競技部の皆さん

横手かまくらFMで市議会情報を知ろう!

横手市議会では、市議会の活動や取組を議員自らの声で紹介するFM番組「もっと教えて! 横手市議会」を放送しています。

また、各定例会開催時には、市長の所信説明や議員の一般質問の様子を放送するとともに、定例会最終日や臨時会当日の夕方には、会議の結果もお知らせしています。ぜひお聴きください。

好評放送中

横手かまくらFM 77.4MHz
もっと教えて! 横手市議会

毎月第2・4月曜日 午前10時40分～
再放送：翌火曜日 午前7時30分～



市議会ホームページで
過去の放送内容をお聴
きいただけます。



今後の放送予定

2/10 議会だより高校生モニター意見交換会

「高校生議会だよりモニター」としてご協力いただいている雄物川高等学校生徒会の皆さんとの意見交換会の模様をお送りします。

前回（令和5年度）の開催では、高校生の目線から、「読みたくない記事」や「読みたくない記事」などについて鋭い指摘をたくさんいただきました。どんな話題が飛び出するか、乞うご期待!



前回の高校生モニター意見交換会

分かりにくい
議会用語などは
こちらで
解説しています



分かりにくい議会用語が
他にもございましたら、
議会事務局までお知らせ
願います。

横手市議会公式
Facebookページ



タイムリーに情報発信中
ページへの いいね!
お待ちしています。

編集後記

新春のお慶びを申し上げます。

昨年も議会だよりについてのご意見・ご感想をお寄せいただきまして、誠にありがとうございました。

本年も読者の皆様のお声を反映しながら、より読みやすく、分かりやすい紙面づくりを心がけて参りますので、何卒よろしくお願い申し上げます。（加藤 雄太）

広報広聴委員会 広報分科会

分科会長	宮川 拓也	副分科会長	林 一輝
委員	加藤 勝義		寿松木 孝
	加藤 雄太		土田百合子



次回発行日のお知らせ

次号（No.83）の発行は令和7年5月1日の予定です。

